

『阪神・淡路大震災から 30 年、被災者からの新提言』

木造住宅専門「耐震対策の新常識」

南海トラフ巨大地震の発生率が、政府の地震調査委員会から 30 年以内に 80%と引き上げられました。阪神・淡路大震災を 30 年前に経験した私達は、古い（1981 以前～1995 年以前）木造住宅の全倒壊の原因の 70%以上は、「無筋基礎」と「ほぞ抜け」だと確信しております。基礎が有筋でほぞ抜け防止（ホルダウン）が設置した木造住宅は倒壊しなかった事例でも証明されています。

壁の補強や、屋根の軽量化は勿論効果はありますが、部屋の中から壁や床や天井を壊したり、屋根の軽量化などの古い（旧耐震）工法は工期が長く、費用も（壁の補強工事：150～200 万円程度、屋根の軽量化：200～300 万円程度）かかりすぎて決断できません。

行政頼みの補助金は、難しく複雑な手続きに時間がかかり過ぎ、30 万円～100 万の補助金を受けるには結局、200 万～500 万（古い家屋は 800 万の事例も多数あり）の補強工事をしないと助成を受け取ることができないのが現実です。

これでは、耐震補強は普及しないし被災者が増え続ける現状は解決しないと考えます。

私達は、補強対策に於いて「強い！」は勿論ですが、何より「早い！安い！」つまり決断 3 要素に拘ります。

なぜなら、決断できないと普及しない、つまり被災者が増えるからです。

- 1, **建築基準法**に基づく補強金具
- 2, 家の中には入らず、外部からの施工で**工期は最短 3 日**
- 3, 助成金に頼らず**決断できる費用**

今後、「何時」「何処」にどれ位の震度で起こる大地震に備え、最低限命だけは守る耐震対策を

一日でも早く、一軒でも多く施工していく事が、阪神・淡路大震災を経験した者の責務だと考えています。

2025 年 1 月 17 日

吉山栄起